しゅくがわスカウト広報誌

夙川

西宮第3団　団報
NO. 15
２００９年　春

夙川スカウトの歩み・・・

西宮のボーイスカウトの発祥はかなり古く、大正１３年に登録された第 1 西宮義勇少年団（現在の西宮１０団）と昭和１０年に結成された瓦木健児団（現在の西宮1団）でした。
しかしその後戦争が始まり、ボーイスカウト活動の芽は摘み取られてしまいます。

終戦後、各種団体の中でいち早く承認されたボーイスカウトは、昭和２４年に西宮第1隊として復活しました。そして尼崎・西宮・芦屋・宝塚の各隊で阪神地区が結成されました。
夙川周辺にはボーイスカウトがなく、夙川の子ども達は芦屋の隊に入隊していたそうです。

昭和２７年、西宮第1カブ隊が結成され、現団委員長の山田明良氏・兄の光良氏が、父、奈良雄氏とともに入隊され、夙川スカウトの第1号となられました。
奈良雄氏は後に西宮3団の産みの親となられます。

その後夙川のカブスカウトは増加を始め、昭和３２年山田奈良雄氏隊長、西宮第1カブ隊・6組は、夙川のカブスカウトのみで編成されるまでになりました。

昭和３３年、日連規約改正により団組織となり、西宮第1カブ隊・少年隊・年長隊をもって、西宮第1団となりました。その時に夙川のカブスカウト（6組）は、西宮第1団第3カブ隊として仮結成され、現在の西宮第3団の基礎となります。
昭和３４年（１９５９年）にカブ隊の隊員も２０名となり、正式に西宮第1団第3カブ隊として結成されました。
同年9月にはそのカブ隊から7名の上進者があり、西宮第1団第3少年隊（ボーイ隊）が仮結成されました。昭和３４年9月１９日のことでした。上進式もすんだその夜に、当時の少年隊（ボーイ隊）隊長松田利昭氏は、子ども達を前にこのように言われました。

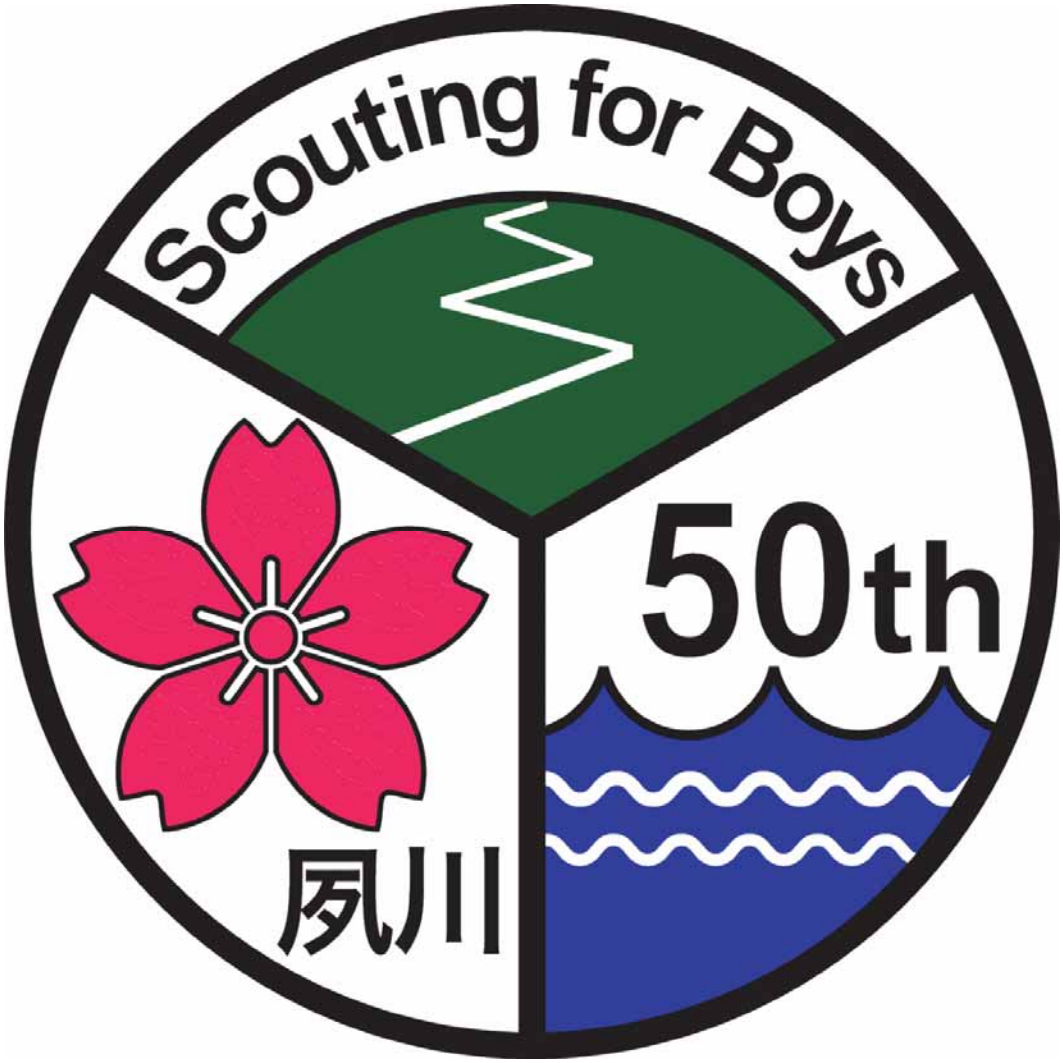
「スカウティングは教えてもらうところではない。感じ取って自分で成長していくところである。
感じ取るためには感度のよいアンテナを作れ。それは観察によって得られる。
スカウティングは観察である。そして推理するところである。」

その後分封の準備に入り、昭和３５年3月１２日に団審査を受け、同年4月1日に、正式に西宮第3団として登録されることとなったのです。
その年8月8日から１５日まで少年隊第1回長期野営が船坂谷で行われ、今も夙川スカウトの伝統として継続されています。

「夙川ボーイスカウト創立２０周年記念誌」より

※現在５０周年記念誌の発行に向けて構成中です。
夙川スカウト５０年の歩みをお楽しみにお待ちください。

夙川スカウト50周年シンボルマーク決定！！



カブ2隊　秦　幸丞

　ぼくのデザインが 50 周年のシンボルマークにえらばれたなんて、しんじられませんでした。とても光えいです。

　ぼくは、自分の住んでいる町がすきです。だからほいくしょのころから遊んでいる夙川や、こうろえんの海、そしてかぶと山の自然をぜひマークにしてみようと思いました。

　ぼくは、ビッグビーバーの春の体けん入たい会にさんかして、とても楽しかったので、すぐに入りました。

今までの活動でいちばん楽しかったのは夏のしゃえいでレックに行ったことです。

地ごく坂を大きな荷物をせおって登るのは、ハイキングよりたいへんでした。やっとついたレックは昔の家でした。虫が多いからやっつける道具は電気が流れます。

竹をわったながしそうめんはおいしかったです。みんなともっと仲よくなれたような気がします。

　ぼくは今しかです。レックで今年も色いろなことをけいけんしてくまになりたいです。

ベンチャースキー

ベンチャー隊　磯野 展輝

　僕たちベンチャースカウトは、冬のプロジェクトでスキーetc…をしに 12 月 25 日～31 日、長野県の小谷村の LEC まで行ってきました。
12 月 25 日の夜に新神戸駅に集合し、夜行バスに乗って長野県まで行きました。
　26 日の朝、バスが到着した場所は、白馬コルチナスキー場でした。予定では、初日はこのスキー場でスキーをするつもりだったのですが、雪が少ないためまだスキー場が営業していなかったので、スキー場から送迎バスに乗って南小谷駅で降り、近くのスーパーで食材を買いました。それから公共のバスに乗って中土駅で降りて、そこから LEC まで歩いて上がりました。慣れた道とはいえ、大荷物を持っていてさらにその上道路に新雪が積もっていたのでとてもしんどかったです。
でも、初めて雪 LEC を見てテンションも上がり、疲れも吹っ飛びました。
　LEC に着いて昼食を作り、食べ終わってから、みんなでかまくらを作りました。
初めてのことで、結構難しいものだなぁと思いました。その日のうちには完成しなかったのですが、みんなで楽しく作れました。
　二日目にはコルチナスキー場が営業を開始したので、早速スキーをしに行きました。一年ぶりのスキーはとても楽しかったです。それから四日目まで、毎日スキーをしました。
　最終日の五日目はかまくらを仕上げました。その後はソリと雪合戦をしました。どちらもみんなハマって、とても楽しかったです。
　ベンチャースキーは楽しい思い出の一つになりました。来年もまた行きたいです。

雪に埋もれたＬＥＣ（今回ではありません）

ボーイ1隊　シルバーウルフ班
耐寒訓練　1位　おめでとう！弥栄！

ＢＳ1隊　隊長　中野祥平

毎年1月に行われる「耐寒訓練」とは、我3団が所属している西宮地区のグリーンバー（班長次長）が一斉に集い、野舎営を通じて互いの実力を競い合う大会で、今年度は５７回目という長い歴史（ちなみに私もスカウト時代に参加しました）をもつ大会であり、今年は摩耶山の「神戸少年自然の家」で行われました。

今年は初日から大雪が降り、2日目のハイキングは残雪の極寒の中耐寒訓練の名にふさわしい活動をしてくれました。

そんな厳しい環境の中、昨年は惜しくも3位という成績でしたが、今年は見事1位を勝ち取り、スカウト達は非常に有意義な1泊2日を過ごせたのではないでしょうか（もちろん私以下副長陣も嬉しかったです）まあ、リアルな感想は参加したスカウトが寄稿したものは拝見して下さい、そのほうが臨場感もありますから。

～ここから先は私の耐寒訓練を通しての感想です～

先ほども記したように、今回で５７回目という耐寒訓練には当然私もスカウト時代に参加したことがあるのですが、今回の耐寒訓練を通じて率直に感じたことは「自分がスカウトだったころと何も変わらないんだな」ということでした。

今ではすっかり指導者で、隊長という大きな役目に日々奮闘していますが、私も彼らと同じように半ズボンを履いて雪の中を走りまわり他の西宮地区のスカウトと、今と同じ訓練をし、同じ技術を競い合いました。そういう訓練を通して「班長としての責任」や「次長としての責任」を学び、また「喜び」や「悔しさ」を覚え、自分の班に戻り下のスカウト達に、そこで学んだことを一生懸命教えた経験があります。

今回の耐寒訓練で、彼らが体験し経験したことは、彼らにとってもちろん良い思い出であり、さらに彼らが下のスカウト達に新たな技術や情報を与えるということを学んでくれたことは、まさに隊長冥利につきます。さらに私自身にもスカウト時代を振り返らしてくれて「あの時の自分も大きな達成感を持っていたんだな」と改めて気づかせてくれたことには感謝しています。

君たちが学んだことをしっかりと伝え、次年度の耐寒訓練も1位になって隊長を泣かせて下さい（笑）

シルバーウルフ班の感想

3団　シルバーウルフ班

今回の耐寒訓練では、まさか1位を取れるとは思いませんでした。その理由は2年前から2位、3位と落ちていたからです。しかし順位発表の時の「1位シルバーウルフ班」と呼ばれた時は最高だった。

耐寒訓練は各班のグリーンバーの集まりなので、普段競争している同士でうまくいかない所が少しあるかなーと思った。けどうまくいってよかったです。

僕らが1位を取れたのは初日のかくれんぼで高得点を取れたことだと思います。それに報告書の略地図や野帳などが良かったと思います。

2日目のハイキングのポイントはまだまだできていない所があるので改善していきたいと思いました。

せっかく耐寒訓練で1位を突端だからその後にある春期キャンプや長期キャンプで生かしていこうと思いました。

もうすぐ耐寒訓練と同じように他団と交流できるキャンポリーがあるので、1位を取ったのが無駄にならないように頑張りたいです。

ローバースキー　2009

「スキーツアーを終えて」

ローバー隊　村田　直哉

今回、私は実行委員長として挑んだスキーツアーでしたが、終えてほっとしているのが現状です。なぜなら、指導者を含めて約１２０人という大人数の参加者だったので、参加者が怪我をするんじゃないかという不安がツアーを終えるまで重くのしかかっていたからです。しかも計画段階ではかなり苦戦しました。実行委員での話し合ったことに抜けがあって、てんてこまいになってしまうことが多々ありました。

しかし、参加者から楽しかった、スキーが上手くなったという声を当日に聞いて本当にうれしかったです。また、個人的にはツアーの計画の流れはもちろん、人員の配置、保護者へのケアなど普段の学生生活では経験できないことを学べました。また、約１２０人という大人数の参加者だったので、その人数に対するマネジメントの方法の一部でも自分は学べたと思っています。

今回無事に終えた理由の1つとしてローバースカウトの中で協力し合えたことと思います。計画段階ではもちろん当日でも1人1人が積極的に活動できたと思います。また、ローバースカウト以外にスカウトクラブ、団委員さんの協力も不可欠でした。スキーツアーを終えて夙川スカウトの団結力が強大なものと感じました。

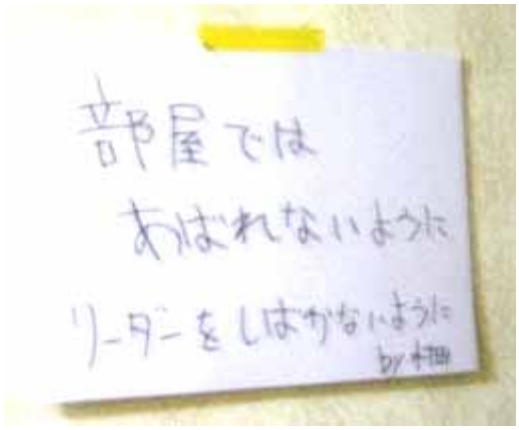
最後にローバースキーツアーで参加者の満足そうな顔を見て、来年も今回同様ローバーで協力し参加者が大いに楽しめるものにしたいです。

カブ1隊　今村　迅

ぼくは、今回、2 回目のスキーツアーでした。1 回目に行った時は、あんまりすべれなかったけれど、今回はすごくうまくなりました。
リフトで上がっておりてくる時も、1 回もこけずに下りる事ができました。
こんなに上手にすべれるようになるとは思ってなかったです。でもリフトが3つあって、ぼくは 2 つしか上れなかったです。
またスキーツアーに行って、もっとうまくなって 3 つ目のリフトに上れるようになりたいです。夜のドッジボール大会や、みんなで入ったおふろも楽しかったです。

カブ3隊　長野　竜

初めてスキーをしたので、ころんでばっかりで、いたくて、なきそうでした。
次の日に、スキーをしたら、前の日よりも上手にすべれました。うれしかったです。
リーダーはとても上手でした。またスキーに行きたいです。



「ローバースキーツアーに参加して」

カブ２隊　保護者　野津　昭子

　昨年、長男の薫平に「参加したら？」と声をかけたところ「リフトに　乗りたくない」と即答されて以来、この1年どうやって参加すると言わせるか、ずっと考えて過ごしました。一般参加で友人を誘うことで合意を得て、厚かましくも私と下の娘二人(1年生と3歳)までバスに乗り込みました。誕生日の夫を置き去りにした罰か、私は行きのバスで見事に酔いました。他にも酔っている子ども達の世話をしているローバーのリーダーさんが頑張っている姿をみると心強いものがありました。

　到着後、部屋割りと板・スキーブーツのサイズ合わせが遅くまであり、大人の私でもかなり眠たく辛かったです。その後も打ち合わせをして遅くまで働いているリーダーの方々は、超人としか思えません。翌朝も早朝からドタバタ…と廊下を走り回る音で目覚めたものの「まだ布団から出たくないよ…」という女子部屋低血圧組にとっては、7時朝食・朝から揚げ物はきつい始まりでした。しかし子ども達はいつものとおりに元気いっぱい。「さすがスカウト！」という印象を受けたのは私だけでしょうか。

子ども達がスキーに出かけた後、私も3歳の娘と一般参加のママさんとともにリフトで上を目指しました。初スキーだった娘はスノーブーツで私の板に上に立って、最初はご機嫌で楽しんでいる様子でしたが次第に「疲れたからもう歩けない」と乗っているだけなのに文句を言い出し、気がついたらぐったり眠ってしまいました。眠った子どもがこれほど重いも　のか…と泣きが入りました。とうとう昼食時間にも間に合わず、リーダーさんたちにご心配とご迷惑をおかけしました。この場をお借りしてお詫びいたします。

　こんな調子でマイペースなまま2日間楽しく過ごすことができました。子ども達の生活やスキー教室までお世話いただき、ローバースキーツアー万歳！！！です。

全員集合した時に見せるローバーのリーダーさんのピリリとした　指導態度、これには子ども達もびしっとなり「さすが。」の一言でした。

　準備から運営までしっかりこなしていくローバーの皆様、デート返上で貴重な休日を大勢の子ども達やおばちゃん達のためにさいていただき本当に有難うございました。

　最後に一般参加の友人たちの声ですが「リーダーたち優しくて面白かった」と大満足の様子でした。いい思い出と薫平のリフト嫌いを克服していただき感謝しております。

カブ２隊　保護者　上田深雪

「ローバー」といえば･･･「車？」（スミマセン、実話です）･･･程度の、大変無知なわたしでしたが、カブ１年目の息子と一緒にはじめてローバースキーツアーに参加させていただきました。集合場所で班毎に並んだところから、もう息子とは別行動。話には聞いていたけれど、バスも別、部屋も別、スキーも別。食事の時間に遠くから顔を見れるほかは、一体どこで何をやっているのか。。。母としてはバスに酔ってないかなぁとか、着替えちゃんと分かってるかなぁとか、最初は気を揉んでました。けれどすぐに気持ちを切り替えました。見ればなんだか楽しそうだし、てきぱき仕切ってくれるお兄ちゃんたちもいるみたいだし、きっと大丈夫！（と、ここでまずわたしが脱皮）のんきな（あ、わたしだけかも）スキーツアーの始まりでした。

夜遅くに到着、順番にレンタルスキーを（ちゃんと揃えて名前が張ってありました）受けとって就寝。翌日はとてもいいお天気でした。真っ青な空に白い山が映えていいかんじ。滑るのは10年ぶり、気持ちもすっかり10年前に逆戻り（してたんです）。

実をいうとゲレンデに出たら、ちょっと滑ってどこかでお茶して～♪なんてお気楽なイメージでおりまして（大昔の習い性です）、ポケットにはお財布やら化粧道具やらがあれこれ入っていましたが、全く無用の長物だとすぐに悟りました。朝食後すぐに集まって、リフト乗って、滑って、リフト乗って、滑って、リフト乗って、下まで滑って宿でお昼食べて、一息ついたらスキー履いてリフト乗って、滑って、リフト乗って、滑って･･･2日目のポケットが空だったのは、いうまでもありません。あぁなんて身軽！少年たちに交じって滑るのは初めての経験で、とても楽しかったです。いろんな年代のお子さんがいて、うちの子もこのくらいになったらこんな感じなのかな･･･と空想してみたり。そしてみんな本当に楽しそう。ごはんがおいしい♪朝は鳥みたいに小食だった女の子チームも、お昼はおなかいっぱい食べてましたね。

それにしても、ローバー隊の皆さまの面倒見の良さ、子どもの扱いのうまさ、準備の周到さそして組織力には感動しました。これだけの大所帯のツアーを、事故もなく、スムーズに運営される手腕はさすがです！（ってそれまで知らなかったんだけど）ご自分たちも思いきり滑りたいでしょうにね。。靴のはき方も分からないような小さなこどもたちの根気強い指導に、スキー班の引率（遭難しかけた子どもを助けたりも）に、さらには生活全般のきめこまかな目配り気配り･･･宿の入り口やお風呂、サービスエリアの駐車場にも必ずどなたかが立って目を配っていらっしゃるし、宿の自動販売機には「飲みすぎに注意」「寝る前はトイレにいく」とのゆきとどいた（？）張り紙があって、わたしはひそかにウケてました。いまどきこんなにマメによく働く若者たちがいるんだなぁと本当にびっくりでした。きっとそれ以外にも、見えないところでたくさんの準備や働きをされていたことでしょうね。

おかげさまで、大変楽しく快適に過ごすことができました。そして子どもたちがどんなにローバー隊の方々を慕いかつ信頼しているか、様々な場面で感じました。（ええもんですねー）同室の女性チームもみなさんとてもいい方で、本当に楽しいスキーツアーでした。

今回参加させていただいたことで、これまで慣れないこともあってか少し遠巻き感のあったスカウト活動を、ずいぶん身近に思えるようになった気がしています。これがわたしにはいちばんの収穫だったかも。それに、母には息子がこんな頼もしい若者になれる（かも）という新たな夢ができました^^「しゅんちゃんも、ローバーのお兄ちゃんたちみたいな、やさしくてかっこいいお兄ちゃんになってね！」「うん(^^)　あのね、イケメンの人ひとりいたよ！」（･･･それはイミが違うだろう息子よ･･･）と心の中でツッコミつつ、「へー、どれどれ？」と一緒にホームページの写真館をのぞき込む日々です。

Thank you for everything. とっても気が早いですが、来年もどうぞよろしくお願いいたします。

母親から見たスカウト活動　　～川田編～

ボーイ2隊　保護者　川田幸恵

　我が家の末っ子長男一朗がビーバースカウトになったのは、小学校1年の春でした。学校から配布された案内をきっかけに 4 月の体験入隊会に参加して、ボーイスカウト独自のワクワクするプログラムにすっかり魅了され、そのまま直ぐ入団することになりました。
8 歳上と6歳上の姉たちに囲まれて育った息子は、この少年集団の中で、家では味わえない冒険や競争に、男の子の本能を目覚めさせられたのではないでしょうか。
　ビーバー・カブの頃はファミリー飯盒炊爨や保護者参加の行事もたくさんあり、甲山や夙川など、近くに素晴らしい自然環境がある事を改めて感じながら、家族みんなでスカウト活動を楽しみました。
しかし、スカウト活動はただのレジャーではなく訓練の意味もあり、厳しい一面もあります。自然を相手に、また集団生活の中で、我慢しなければならないことも多く、正直言って、「体力が持つだろうか？」「みんなの中で上手くやっていけるだろうか？」と心配した事もありました。
そんな母親の心配をよそにスカウト活動に一度も弱音を吐かずむしろ楽しんで続けて来られたのは、一緒に活動している気のおけない仲間や、お手本を示してくれる先輩たちや、魅力的な指導者の皆さんのおかげと感謝しています。
　昨年9月からボーイ隊に上がった息子は、カーキ色の制服を誇らしげに身につけて、雨の日も風の日も寒い夜も元気よく出かけて行きます。
息子はこれから思春期を迎え、子育ても難しい時期に入っていくでしょうが、地域の中にたくさんの絆ができたこと、親としても子育て仲間ができたことが嬉しく本当に心強いと思っています。
もしもボーイスカウトに入団していなかったら、小学生の息子が地域の中・高生や大学生、社会人の皆さんと知り合う機会すらなかったでしょう。
　「将来何になりたい？」と尋ねると「ボーイの隊長になりたい」と答えるほど、ボーイスカウトが大好きな息子ですが、今いらっしゃる指導者のように、年を重ねても少年の心を忘れない素敵な大人になって欲しいものです。
そして少しでも地域社会に恩返ししてくれれば嬉しいです。

父親から見たスカウト活動　　～成岡編～

ベンチャー隊　保護者　成岡　崇行

ベンチャー2年目の息子がいつもお世話になっております。育成会の方々、松井隊長はじめボランティアで団運営を支えてくださっている多くのリーダーの方、お父様、お母様方に感謝申し上げます。

さて表題のテーマについてですが、何を書いて良いものやら、日頃仕事が忙しいことを理由に協力らしき協力をしてこなかった父親としては、懺悔の場として関係方々にお詫びの文を捧げるのみであります。

私もこの西宮に生まれ、西宮に育ちました。都会にしては海も山も近く、自然環境が豊かとよく言われますが、まさにボーイスカウトの活動にはうってつけの環境と思います。

息子はビーバースカウトから入隊しましたが、入隊の動機は、何かひとつの事に自信を付けることの大切さと、集団の中で揉まれながら育っていくことの大切さを考えて、ご近所のお友達とともにボーイスカウトの門を叩きました。

案の定、最初は嫌々の参加で、やる気もなく、かなり皆さんに迷惑をかけていたらしいのですが、欠席だけはしないように母親があの手この手で説き伏せて泣く泣く続けさせてきました。カブからボーイに上がるときに、ボーイはキツイからもう無理だろうと言われていたのですが、なんとか続けさせて来ました。

父親としては、バザーの時に荷物を運ぶくらいがせいぜいで、親としての活動は家内にまかせっきりでしたが、最近はその甲斐あってか随分と姿勢が変わって来ました。中学になってからは、過酷な環境での春の野営や夏の信州小谷村池原での野営もこなし、活動に積極的に参加するようになりました。さらに菊章を頂いたことが自信になったのでしょうか、ベンチャーに上がって去年の夏には北アルプス遠征にも参加するようになりました。

継続は力也などと世に言いますが、不器用でも続けていれば、曲がりなりにも力を付けることができ、その内に自信も少し出て来たように思われます。まだまだ人間的にも技量的にも未熟ですが、活動を継続していくことにより人間として生きていく力が付けばと親として願っています。

このように息子を通して見たボーイスカウト活動の印象ですが、社会に出ると当然存在する上下関係や、人とのコミュニケーションの仕方、さまざまな仕事の役割や仕事の段取り、指示の仕方および受け方など学校の勉強ではできない多くのことを学べる大変良い機会であると思います。私は民間企業に勤めるサラリーマンですが、このような集団活動を通して学んだ経験は社会に出て非常に役立ちますし、重要だと思います。

蛇足かもしれませんが、ボーイスカウト活動のもうひとつ良いところは、参加者が平等に扱われる点であると思います。もちろん班長や次長などの役割はあるのですが、あくまで集団の中での役割であり、頑張りに応じて活躍の場が広がる点は非常に良いと思います。運動がにがてな私の思い込みかも知れませんが、他の一部のスポーツ活動ではレギュラー選手とそれ以外の人が平等に扱われているとは思えない所があります。

世の中も個人主義がはばかり、集団の規律に馴染めない若者が増えているように思えます。知識偏重の学校教育現場では、集団活動を通して学ぶ機会が得にくいのも事実で、こうした中、ボーイスカウト活動の重要性は、今後ともますます高まっていくでしょう。日本の未来を担う若者を育成する場としてずっとずっと活動を続けて行っていただきたいと思います。

編集後記

今年の春の野営は場所を小野市に移し、未開拓の地で行われました。

キャンプ場ではなく未開の地で行うキャンプは、相当大変な作業を伴います。
まずテントを張る場所、そこに行くまでの道、食事を作るかまどから、全てスカウト達の作業で行われる開拓にて進んでいきます。テントを張るだけの平らな場所など当然無く、木を切り土を掘り、初日などは斜めのわずかなスペースに無理やり設営をして、班員みんなが折り重なるように眠ります。次の日は少し広くなり、溝などもできて少し快適になります。
日がたつにつれて少しずつ改善されていくキャンプは、毎日が開拓で終わります。

私は昭和46年(1971年)に今の信州池原の開拓キャンプに参加しています。
ひたすら急な山道を登りキャンプ道具を運び、うっそうとした森に野営地を開拓していった経験があります。当時中学二年生の私が経験したことは、私の人生の大きな1ページとなり、今でも当時の話になると熱くなってしまいます。

開拓は1年では完結しません。毎年少しずつ進んでいきます。でも未開の地に最初に入る感動は最初の年だけです。子ども達が自由に木を切り、自分達の手でキャンプサイトを整備していく…このような経験は望んでもできることではありません。

将来このキャンプ場を語るときに、自分たちが開拓をしたという自負がそのスカウトたちの宝物になるのだと思います。

次号では、その子ども達の開拓キャンプの感想をお伝えしたいと思っています。

発行
ボーイスカウト兵庫連盟西宮第３団
団委員長　山田明良
広報担当　大垣昭博・大垣恵子
ＨＰhttp://www.shukugawa-scout.net/
Mail kouhou@shukugawa-scout.net
★広報のメルアド変わりました。
発行　　平成２１年４月